

家畜改良増殖目標畜種別研究会における検討状況について

1. 第 1 回研究会

次期家畜改良増殖目標を検討するため、畜種別に研究会を設置・開催し、本年 6 月から検討を開始。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（6 月 9 日）
- ・肉用牛（6 月 8 日）
- ・豚（6 月 17 日）
- ・鶏（6 月 10 日）
- ・めん山羊（6 月 27 日）
- ・馬（6 月 24 日）

(2) 検討事項等

- ① 改良増殖をめぐる情勢
- ② 家畜改良増殖目標に係る現状と課題
- ③ 新たな家畜改良増殖目標の検討の視点について
- ④ 新たな家畜改良増殖目標について（討議）

2. 第 2 回研究会

第 1 回研究会の後、各委員より追加的意見等を頂きながら、新たな目標の骨子案を作成し、第 2 回研究会において議論（肉用牛については別添のとおり）。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（9 月 29 日）
- ・肉用牛（10 月 7 日）
- ・馬（11 月 5 日）
- ・豚（10 月 15 日）
- ・鶏（10 月 16 日）
- ・めん山羊（11 月 12 日）

(2) 検討事項等

- ① 委員からの意見等と今後の方向性について
- ② 新たな目標の骨子案について

3. 現地調査

家畜改良及び生産現場の調査、関係者との意見交換等を通じ、家畜改良の取組がどのように生産現場で活用され消費につながるか等についての理解を一層深め、今後の家畜改良増殖目標の見直しに係る議論のより一層の深化を図るため、本年 8 月 20 日、現地調査を実施。

新たな家畜改良増殖目標（第10次）の検討状況について

－乳用牛－

現状と課題

- ・ 遺伝的能力は着実に向上しているが、近年の猛暑や繁殖性の低下等により、1頭当たり乳量は伸び悩み。供用期間も短縮傾向。
- ・ このため、受胎率の改善や故障の発生予防のための飼養管理の徹底、供用期間の延長を推進する必要。
- ・ 飼料費低減のための放牧を含む自給飼料の利活用を高めるための飼料利用性の向上が必要。



新たな改良増殖目標(案)のポイント

【能力に関する目標】

生涯生産性を高めるためには、能力と体型をバランスを良く改良することが重要であるため、総合指数（NTP）を重視した改良を推進。

① 乳量

- ・ 遺伝的改良量(育種価)に加えて、表型値(実搾乳量)も目標数値として設定。

② 泌乳持続性

- ・ 泌乳曲線を平準化させた泌乳持続性が高い乳用牛への改良を推進。

③ 乳成分

- ・ 現在の乳成分率を維持。

④ 繁殖性

- ・ 分娩間隔が長期化している個体に対する適切な飼養管理により、必要以上の空胎期間の延長を回避。

⑤ 飼料利用性

- ・ ボディコンディションスコアを指標とした個体管理の励行を推進。

⑥ 体型

- ・ 長命連産性の向上を図るため、乳器・肢蹄に着目した改良を推進。
- ・ 搾乳ロボットに適した乳頭配置等に配慮。

【能力向上に資する取組】

① 牛群検定

- ・ 酪農家にとってわかりやすい検定データを提供。

② 改良手法

- ・ 酪農家の多様な改良ニーズ(放牧適正等)に合致した国産種雄牛の簡易な選択システムの充実。
- ・ ゲノミック評価のモデル的取組と精度向上、将来的な後代検定の効率化。
- ・ 性判別技術を活用して優良後継牛を確保した上での受精卵移植による和子牛の生産拡大。

※ 現在も議論中の事項

- 乳量に関する表型値(実搾乳量)の目標数値については、①全酪農家の平均値とすべきか、②牛群検定参加農家の平均値とすべきか。
- 泌乳持続性の向上と長命連産性との関係性など、具体的なメリットの再検証。
- 飼料利用性に関する定量的な目標数値の設定が可能かどうか。
- 次期食料・農業・農村基本計画における食料自給率目標(37年度目標)と整合する目標数値(飼養頭数を含む)の設定。